

# 人物で語る 日本デンマーク

## ⑫ 岩瀬和市Ⅱ

碧海郡における産業組合の中心として碧海郡購買販売組合連合会（通称丸碧）が、郡内三十四の産業組合によって設立されたのは一九一五年（大正四年）である。設立当初は米の販売、肥料と農機具などの購買事業を行っていたがうまくいっていなかった。しかし、次第に所属組合も増加し、大正時代末には西加茂郡の一部の組合も加わり、七十九組合、二万人の組合員をかかえる全国有数の産業組合連合会となった。岩瀬和市は、一九二八年（昭和三年）に第四代丸碧会長となり、その運営を担うことになった。

丸碧の事業は、鶏卵・生鳥・大根切干の販売、米麦の保管・販売、肥料・飼料の購買などであったが、中でも丸碧の名を特に有名にしたのは鶏卵の販売であった。

鶏卵の販売は、はじめ各農家が棒手振と呼ばれる卵買出人に売っていたが、明治末期になって各地に養鶏組合ができること、それらが特約販売または入札販売の方法をとり始めた。

その後、碧海郡養鶏組合連合会を経て、一九二三年（大正一二年）に鶏卵販売業務の一切が丸碧に移管されることになった。これによって鶏卵の共同販売の機構ができあがり、安城の養鶏は一層進展していくことになった。たまたまその年、関東大震災があり、救済物資として鶏卵二千箱を無料で配布したことをきっかけに東京の業者との取り引きが始まった。

卵の販売方法は、各組合で五日ごとに集卵し、大中小と卵を分別した後、丸碧の商標のついた十六キロ詰めの木箱にもみ殻とともに詰め込み、翌日丸碧へ出荷する。丸碧では、それを安城駅から毎日平均八トン積み貨車で一車半ずつ東京に発送した。東京事務所では、発送通知を受け取るとすぐに問屋・消費組合などに直接販売した。代金は農林中央金庫に



▲共同栄碑（中央）と歴代会長顕彰碑（左）  
（御幸本町）

払い込まれ、丸碧を通じて各組合員の貯金口座に振り込まれた。岩瀬和市は、このシステムが「デンマークの組合と同じ方式である」というので、日本におけるデンマークと大阪毎日新聞に掲載されたのが日本デンマークの始めである」と述べている。

こうして東京を中心に販路を開拓していった丸碧は、一九三三年（昭和八年）には、九万四千六百四十四箱、価格六十三万八千九十一円の販売高をあげ、その販売先は東京が九十八パーセントにもおよんだ。丸碧の卵は品質的に優れたものとして好評を受けたが、小売店の店頭では地卵と混同されがちだったので、宣伝も兼ねて、卵の殻に直接丸碧のマークをつけて三越百貨店などで販売したともいう。

丸碧は、一九四一年（昭和十六年）に愛知県販売購買利用組合連合会に事業を統合されて解散することになるが、碧海郡の産業組合の中心として果たした役割ははかりしれない。現在、西三河農業センターの敷地の隅に、丸碧発祥の地として記念碑が残されている。

文 大見 功



▲丸碧発祥の地